

第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン

第2回検討委員会資料

1. 計画の構成	p.1
2. 見直しの背景	p.2
3. 現状と課題	p.4
4. ガーデンの再定義について	p.13
5. テーマと基本方針の見直し	p.14

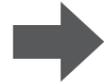
2021.12.14 TUE

■ 第2次プランの構成

第2次プランの構成は第1次プランの構成を踏襲し、以下のとおりとする。

第1次加賀市ガーデンシティ 構想推進プランの構成

- ・ 背景
- ・ 現状と課題
- ・ テーマと基本方針
- ・ 施策の展開
- ・ 主なエリアにおける地域特性図
- ・ 推進体制



第2次加賀市ガーデンシティ 構想推進プラン再構成

- ・ 見直しの背景
- ・ 現状と課題
- ・ テーマと基本方針

第2回検討委員会での検討内容

・ アクションプラン（施策の展開） ----- 第3回検討委員会での検討内容

・ 推進体制 ----- 第4回検討委員会での検討内容



第2次プランで留意すること

テーマの明確化と市民の認知
アクションプランの実施
推進体制の構築

見直しの背景

ガーデンシティ構想推進プランは、北陸新幹線金沢敦賀間開業やインバウンドを考慮した成長戦略の1つとして、平成28年7月に策定し、これをベースに施策を展開している。しかし、この度の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国的に公園緑地に対する認識や使い方が見直されており、これらの社会情勢や緑を取り巻く環境変化を踏まえた、緑に関するシティプロモーションと担い手の確保を目的として改定する。

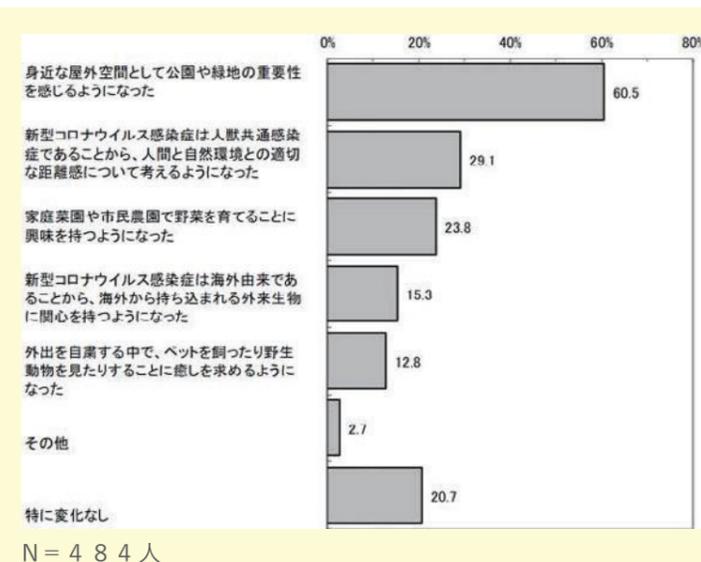
● 背景① 北陸新幹線金沢敦賀間開業に伴うシティプロモーションの強化

北陸新幹線は2024年春、金沢駅から敦賀駅（福井県敦賀市）まで延伸開業予定。途中駅として加賀温泉駅が設けられる。これに伴い、駅前や温泉街を中心に民間による整備の推進や取り組みの活発化が見られる。

➡ 活発化する民間の取り組みの後押しとなる、**シティプロモーション強化**を行う

● 背景② 新型コロナウイルスの感染拡大による全国的な公園緑地需要の高まり

東京都では、生物多様性への考えや新型コロナウイルス感染症拡大に伴う都民の意識の変化を知る目的で調査を実施した。



東京都が都政への意見を聞くために行ったアンケートでは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、公園や緑地の重要性を感じるようになった人が6割に上ることが分かった。家庭菜園や市民農園で野菜を育てることに興味を持つようになった人も2割を超えた。

都政モニター500人を対象に10月6日までの7日間、インターネットで行い、484人から回答を得た。

参照：東京都生活文化局 令和2年度第4回インターネット都政モニターアンケート「生物多様性について」調査結果

➡ 全国的な新型コロナウイルスの感染拡大により、**自然環境に関する意識の変化が高まっており、公園や自然環境について捉え直す**

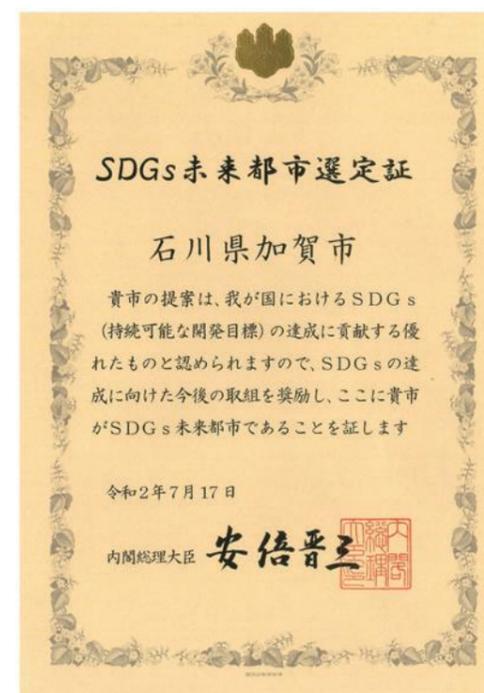
● 背景③ SDGs（持続可能な開発目標）の広がり と 加賀市 SDGs 未来都市の認定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Japan. Committed to SDGs



持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）として、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載され、日本としても積極的に取り組んでいる。（外務省ホームページより）



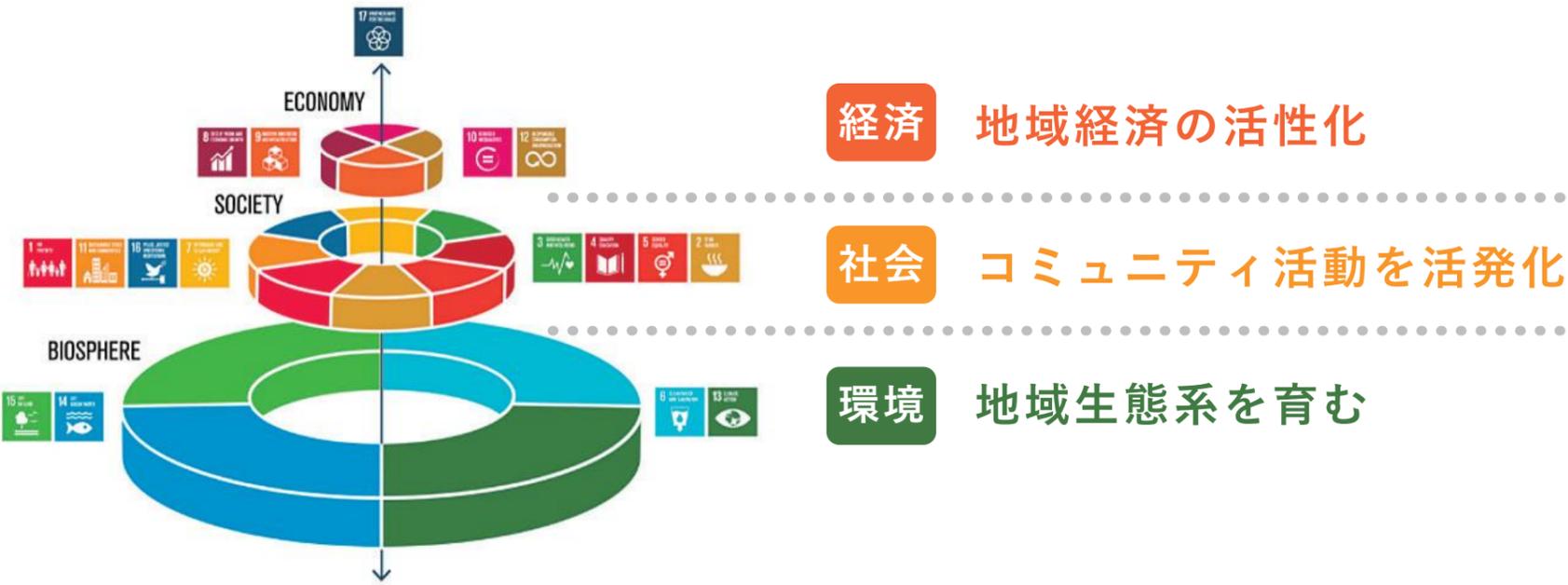
2020年に加賀市がSDGs未来都市として認定され、SDGsの取り組みを積極的に行っている。

SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、国連全加盟国が合意をした世界共通の目標であり、「持続可能＝これからずっと」「開発＝発展するために」「目標＝目指すこと」という意味である。すなわち自分たち、そして自分の子どもや孫が安心して暮らせる社会をみんなで協力して作っていこう、そのために2030年までに17個の目標を達成しようという動きがSDGsである。

SDGsにおけるガーデンシティ構想の位置付け

SDGs
ウェディングケーキモデル



経済 地域経済の活性化

社会 コミュニティ活動を活発化

環境 地域生態系を育む

第2次加賀市総合計画より
(土地利用・交通ネットワーク医療・福祉・商業などの都市機能)

基本方針2 | 観光と歴史、文化の振興による賑わいのあるまちづくり
基本方針3 | ものづくりと雇用創出で、活力と勢いのあるまちづくり
基本方針7 | 将来を見据えた、効率的な行財政で支えるまちづくり

基本方針1 | 安心の子育てと地域に根ざした教育による笑顔あふれるまちづくり
基本方針4 | いつまでも元気で健やかに暮らし続けられるまちづくり
基本方針5 | みんなが手を取り、いきいきと安心して暮らせるまちづくり

基本方針6 | 豊かな自然を守り育てる、美しく快適なまちづくり

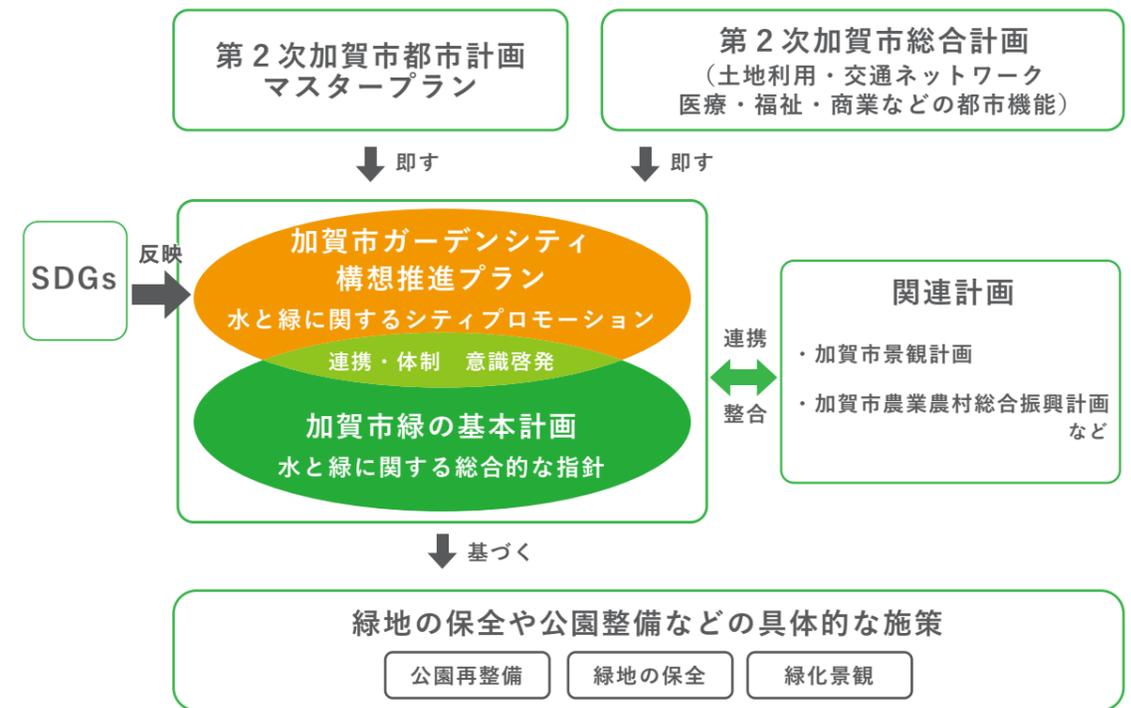
➔ SDGsにおける、本市のガーデンシティ構想は、「環境」のカテゴリーをベースに取り組みながら、コミュニティ活動の活性化そして、地域経済の活性化を図る取り組みである

SDGs ウェディングケーキモデルとは

地球規模の持続可能性に関する分野で国際的に知られるスウェーデン出身の環境学者のヨハン・ロックストローム氏らによって2016年に提唱された。生物（地球環境）の基盤があることで、私たちの社会、そしてお金を生み出すための経済が成り立っていることを表している。たとえば、貧困や教育など社会の問題を解決しても、水不足や気候変動など、根本的な環境の問題が解決しなければ生きられない、などがある。

上位関連計画との関係

本計画は、加賀市緑の基本計画と密接に関連するものであり、「第2次加賀市総合計画」や「第2次加賀市都市計画マスタープラン」を上位計画とし、関連計画である「加賀市景観計画」等と整合を図ることに加え、SDGsの考え方を取り入れ、本市における水と緑に関するシティプロモーションとして位置付ける。



■ 第1次プランの実施策の評価

第1次プランのテーマと基本方針は以下の通りであり、これらを基に施策を進めてきた。ここでは、これまで実施してきた施策について、緑化団体等へのヒアリングや現地分析を行い、各基本方針ごとに評価し、課題の抽出を行う。

● 第1次プランのテーマと基本方針

テーマ

ひろげよう暮らしのみどりもてなしのまち

基本方針

①【骨格づくり】

メリハリのある風景づくり

②【温泉地等の観光地】

もてなしの風景づくり

③【眺望（今ある緑を活かす）】

地域を魅せる風景づくり

④【意識啓発・情報発信】

暮らしを楽しむみどり

⑤【連携体制・活動】

みんなでひろげるみどり

● 各基本方針ごとの実施施策評価

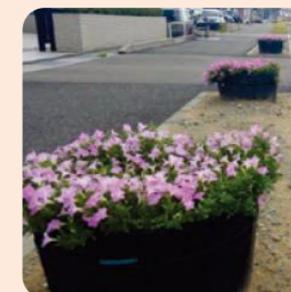
①メリハリのある風景づくり【骨格づくり】

成果 加賀温泉駅周辺の整備や国道8号のプランター設置

加賀温泉駅舎の整備に合わせ、ガーデンシティ構想を考慮した駅前整備計画を進めている。また、国道8号では、四車線化整備が進められており、これに伴い大型プランターの設置による緑化を行っている。



加賀温泉駅周辺



国道8号

国道8号 緑化協力 事業者

国道8号緑化協力事業者へのヒアリング

対象緑地カテゴリ | プランター 対象の緑地詳細 | ペチュニア（寒さに弱い）
目的 | 店先を綺麗にしたい ガーデンシティ構想に関して | 内容を知らなかった

課題

- ・植物に関する情報が一切なく（品種も知らなかった）枯れたらどうすればいいのか、水やりは何回かなどの管理方法がわからない
- ・水栓が近くにないので水やりがとても大変で、プランターと一緒にもらったジョウロでは足りない
- ・なんのためにこのプランターを育てているのか、目指している方向性がわからない

可能性

- ・植物を誰もが育てられるような仕組みづくり（マニュアル等）が求められている
- ・維持管理に関する継続的なサポートを考えていく必要がある
- ・国道8号沿でなにを目指しているのかということやガーデンシティで目指している方向性に関して担い手と一緒に考えていくべきなのではないか

国道8号の緑化協力店の管理状況

fig.1 各店舗で熱心に取り組む方もいる一方で、枯れているプランターも見受けられる。

fig.2 市から提供されたものは花のプランターと小さいジョウロと栄養剤のみで、マニュアルが欲しいとの声がある。



fig.1 | 国道8号沿の緑化の現状



fig.2 | 支給されるジョウロ

課題

- ① 目指している方向性の共有や担い手との連携不足
- ② 継続的な維持管理が難しい

②もてなしの風景づくり【温泉地等の観光地】

成果 温泉街の景観づくり

温泉街をはじめとする市街地において、ハンギングバスケットやプランターの設置による緑化を図っている。



山中温泉ゆげ街道



片山津温泉3区通り

商店街組合

地域の商店街にある商店街組合へのヒアリング

対象緑地カテゴリ | プランター 対象の緑地詳細 | 安い苗 (1年草)

目的 | 商店街を盛り上げたい ガーデンシティ構想に関して | もてなしガーデナーは知っている

課題

- ・予算が単年度（自主財源（商店街予算））なので理想の苗を買いにくい（本当は紅葉などの和のものが多い）
- ・温泉街（加賀市）で景観に関する共通の目指す方向性がない
- ・商店街コミュニティに入ってくる若手が少なく、活動人材の固定化が起きている

可能性

- ・予算を1年単位で考えていくのではなく持続的な予算の使い方と、市で負担する予算と商店街での予算の棲み分けができるのではないか
- ・どの商店街やコミュニティにもつながる温泉街で目指す景観やみどりのコンセプトが必要である
- ・みどりだけでなくまちとして（商店街として）活性化させる必要がある

山代温泉の商店街の管理状況

fig.3 10年前はプランターを50個ほど管理していたが、プランター自体のメンテナンスや水やりなどで10個を一人で管理している状況。

fig.4 市が行っている「もてなしガーデナー」制度も検討したが、維持管理への長期的なサポートがなかったため、自主予算で自分たちで継続的にできる限りで管理を行っている。



fig.3 | 女生水商店街



fig.4 | 温泉通り商店街

- ### 課題
- ①新たな担い手がいないことによる活動人材の固定化
 - ②従来のもてなしの考え方では地域（まち）が活性化することは難しい

③地域を魅せる風景づくり【眺望（今ある緑を活かす）】

成果 柴山瀉遊歩道の設置や白山眺望広場の整備

柴山瀉周辺を散策できる遊歩道や、柴山瀉の水辺空間と白山を眺望できる広場を整備している。



瀉や河川沿い



白山眺望広場

現地分析 IC 付近の眺望分析

加賀 IC 付近

fig.5 IC 付近からの丘陵地の風景。サインなどにより加賀市特有の緑の風景が活かされていない。



fig.5 | 加賀 IC 付近

片山津 IC 付近

fig.6.7 IC 付近からの田園風景。近くに加賀市の生活風景の一つである田んぼがあるが、建物やサインによって景観が妨げられている。



fig.6,7 | 片山津 IC 付近

- ### 課題
- ①IC 付近で今ある風景を活かしきれていない
 - ②街路樹などの連続的空間になっていない

④暮らしを楽しむみどり【意識啓発・情報発信】

成果 情報発信（SNS）や講座の実施

SNSによる緑化活動の情報発信のほか、花や緑の養成講座により意識啓発を行っている。



花や緑の情報発信（SNS）



花や緑の養成講座

⑤みんなでひろげるみどり【連携体制・活動】

成果 もてなしガーデナーの登録者数が109組に

緑化推進団体「もてなしガーデナー」の登録制度を創設し、情報発信や花苗の支援を行っている。



もてなしガーデナーへの花苗支給



もてなしガーデナーの登録推進

もてなしガーデナー

加賀温泉駅前の耕作放棄地で活動する任意団体へのヒアリング

対象緑地カテゴリ | 耕作放棄地・花壇 対象の緑地詳細 | もてなしガーデナー提供資材参照 目的 | 景観でまちを綺麗にしたい ガーデンシティ構想に関して | 詳しくは知らなかった

課題

- ・現状では花苗の配布のみで、維持管理に関する補填がない
- ・もてなしガーデナー同士の交流は個人（各団体内）のみで、もてなしガーデナー全体としての交流の機会がない
- ・緑や花の知識を共有する機会や、自分たちの緑や花を発信する機会がない

可能性

- ・花苗の配布以外に緑地管理に関する継続性のある補助としてかもワーク等で行っているサポートなどを活かすことはできないか
- ・もてなしガーデナーのつくった緑地等に関しての発信と熱心な人同士が交流する機会の創出
- ・もてなしガーデナー制度は、耕作放棄地や公園等の管理の担い手になる可能性がある（fig.9 参照）

はなはな会の管理状況

- fig.8 現在は加賀温泉駅前近くの耕作放棄地になっていた田んぼを借りて、花壇をつくる活動を行っている。
- fig.9 市から春と秋に年2回届く花苗のリスト。100個の苗を選ぶことができる。



fig.8 | はなはな会が管理する場所



fig.9 | もてなしガーデナー花リスト

造園業者

造園業者へのヒアリング

対象緑地カテゴリ | 公園緑地・街路樹 内容 | 植栽管理・公園管理・設計等 ガーデンシティ構想に関して | 詳細を知っている

課題

- ・観光に力をいれすぎて地元のニーズに合っていない公園が多い
- ・これまでのガーデンシティ構想はほぼ手付かずの印象
- ・すべての公園や緑地を平均的に管理していくのは予算的にも厳しいので、管理にお金をかける公園・地元が管理する公園などのメリハリが必要

可能性

- ・お母さん世代の情報網に期待をしており、子育てなどの公園と直接関係ないことをうまく公園と結びつける取り組みをしていきたい
- ・今後加賀市の緑はどうなっていくべきかという話し合いの機会が必要
- ・地元で管理がうまくいっている公園もあるので、地元で管理できるようになってほしい

造園業者ヒアリング

- ・加賀市のみどり、全部を綺麗にするのは難しいけれど、きちんと絞って綺麗にしていくことが重要。まちなかの緑化は地元の団体で地元でやっていけるようにしていきたい。
- ・いくらお金がないといっても公園のお金の掛け方を変えるべきなのではないか。

・一般の方には、担い手になってもらいたい。かが緑化研究会でノウハウなどを教えることもできる。

・仕事を待っている状態なのが課題。提案型ではなく待っている状態なのがあったくない。

シルバー
人材
センター

シルバー人材センターへのヒアリング

対象緑地カテゴリ | 多様 対象の緑地詳細 | 個人の庭から市が管理している緑地まで
目的 | 人材派遣 ガーデンシティ構想に関して | 内容を詳しくは知らない

課題

- ・シルバー人材は65歳から入れるが基本的に75歳以上の人が参加するので、**シルバー内でも高齢化**が起きている
- ・シルバー人材になってから初めて緑化作業を行う人が多い
- ・仕事の**マッチング**が難しい

可能性

- ・シルバー人材の**緑化に関する講習会**を地元の造園業者が行っていたことがあったらしく、**地元の業者との仕事の棲み分け**を検討できる
- ・シルバー人材になり緑化活動に従事することで、**セミプロレベルの緑化知識**を身につけられる

シルバー人材センターヒアリング

- ・シルバー全体の登録者としては500-600人程度。そのうち草刈りなどの管理を行うのは60人程度。3-4人ごとの班分けを行って、仕事を割り振っている。
- ・公共の仕事と個人の仕事の割合は3:2くらい。最近**個人の庭の管理**や空き家の庭の管理が増えた。

- ・仕事はたくさんあるがそれに合う人をマッチングさせるのが、とにかく難しい。スキルはシルバー人材になってから身につけるのでその人のレベルに合ったものを充てているが、スキル習得までに時間がかかる。
- ・人材募集は月に2回の説明会とハローワークで行っている。

④暮らしを楽しむみどり【意識啓発・情報発信】

⑤みんなでひろげるみどり【連携体制・活動】

課題

- ①情報発信不足によりコミュニティの横の連携がない
- ②公園等が有効に活用されていない
- ③市民への啓発が不十分
- ④みどりに関する話し合いの場がない
- ⑤持続的な維持管理方法が共有されていない
- ⑥耕作放棄地など低未利用地が管理されていない

● 実施施策の評価のまとめ

①メリハリのある風景づくり【骨格づくり】

成果 加賀温泉駅周辺の整備や国道8号のプランター設置

- 課題
- ①目指している方向性の共有や担い手との連携不足
 - ②継続的な維持管理が難しい

②もてなしの風景づくり【温泉地等の観光地】

成果 温泉街の景観づくり

- 課題
- ①新たな担い手がないことによる活動人材の固定化
 - ②従来のもてなしの考え方では地域（まち）が活性化することは難しい

③地域を魅せる風景づくり【眺望（今ある緑を活かす）】

成果 柴山瀧遊歩道の設置

- 課題
- ①IC付近で今ある風景を活かしきれていない
 - ②街路樹などの連続的空間になっていない

④暮らしを楽しむみどり【意識啓発・情報発信】

成果 情報発信（SNS）や講座の実施

⑤みんなでひろげるみどり【連携体制・活動】

成果 もてなしガーデナーの登録者数が109組に

- 課題
- ①情報発信不足によりコミュニティの横の連携がない
 - ②公園等が有効に活用されていない
 - ③市民への啓発が不十分
 - ④みどりに関する話し合いの場がない
 - ⑤持続的な維持管理方法が共有されていない
 - ⑥耕作放棄地など低未利用地が管理されていない

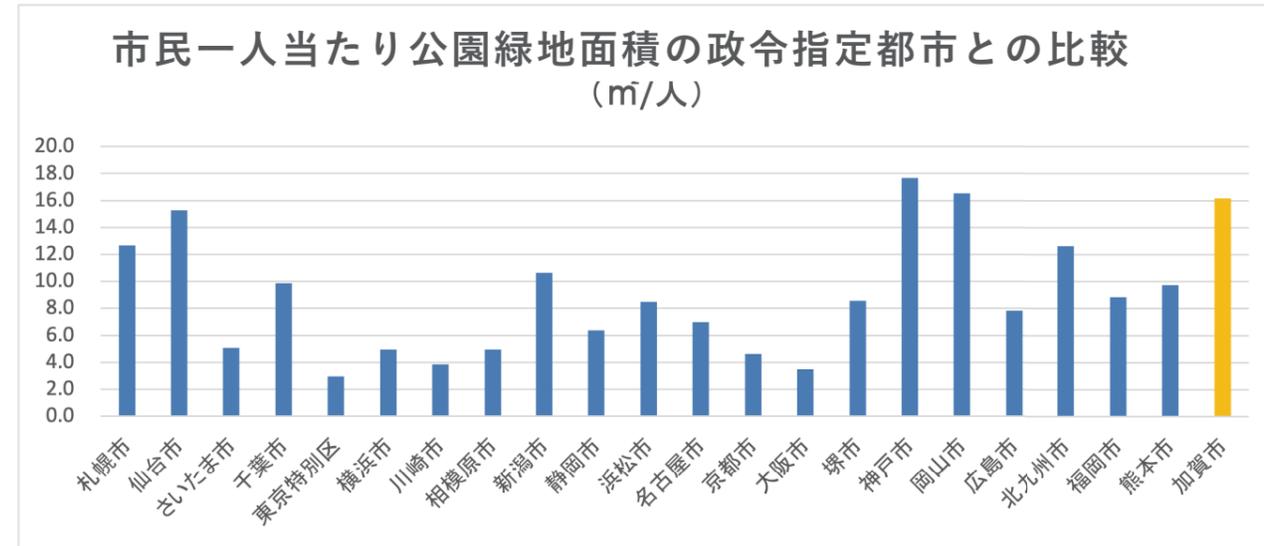
■ プランの見直しに伴う調査

① 本市の公園や緑地の現状

造園業者へのヒアリングによる公園や緑地の現状把握に加え、本市の公園データや管理状況などから課題を抽出する。

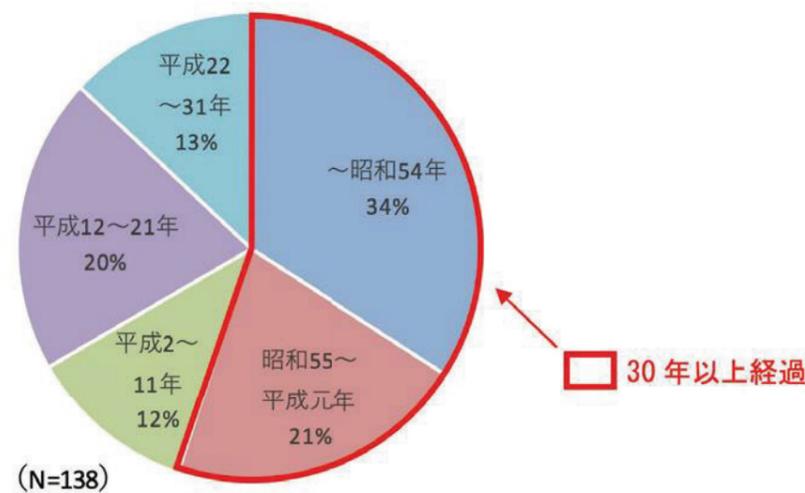
公園緑地面積の比較と設置年別の公園緑地の割合

本市の市民一人あたりの公園緑地の面積は16.2m²/人（H29.3末時点）であり、大都市・中核都市と比較すると大きいことがわかる。人口減少が進む中、この傾向はより強まっていくと考えられる。一方で本市における設置年別の公園緑地の割合を見ると平成元年より前に設置した30年以上経過している公園緑地が全体の半数以上を占めている。



参照：都市公園データベース

【設置年別の公園緑地の割合】

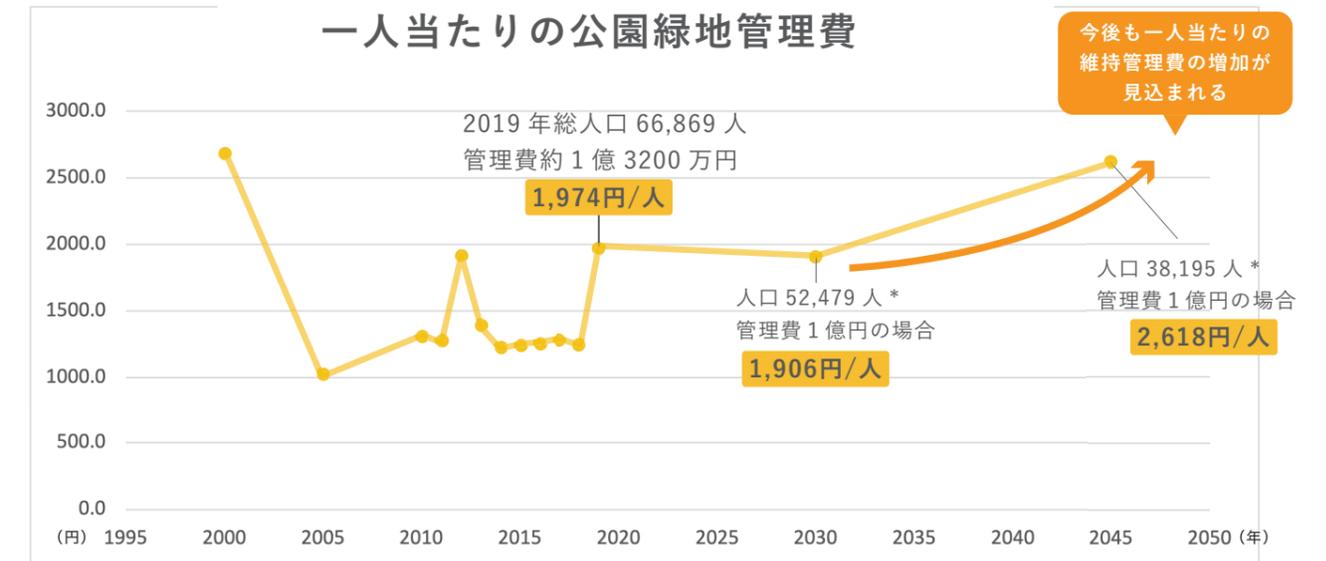


※設置年不明除く。
参照：加賀市緑の基本計画

➡ 人口減少に伴い市民一人あたりの公園緑地は増えているが、老朽化が進む公園も増加している

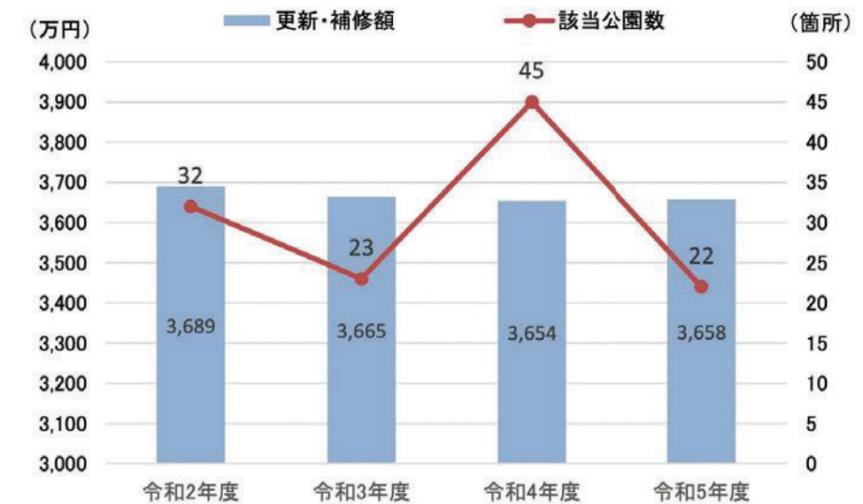
公園緑地管理費の推移

現在、加賀市で公園緑地の管理に充てられる**予算は年間約1億円前後**を推移している。また、そのうち年間約3700万円が老朽化した公園施設の更新や補修費に使われている。



参照：加賀市の公園緑地管理費及び加賀市人口データより算出，*人口予測データ：社人研より

【更新・補修費の推移と内訳】

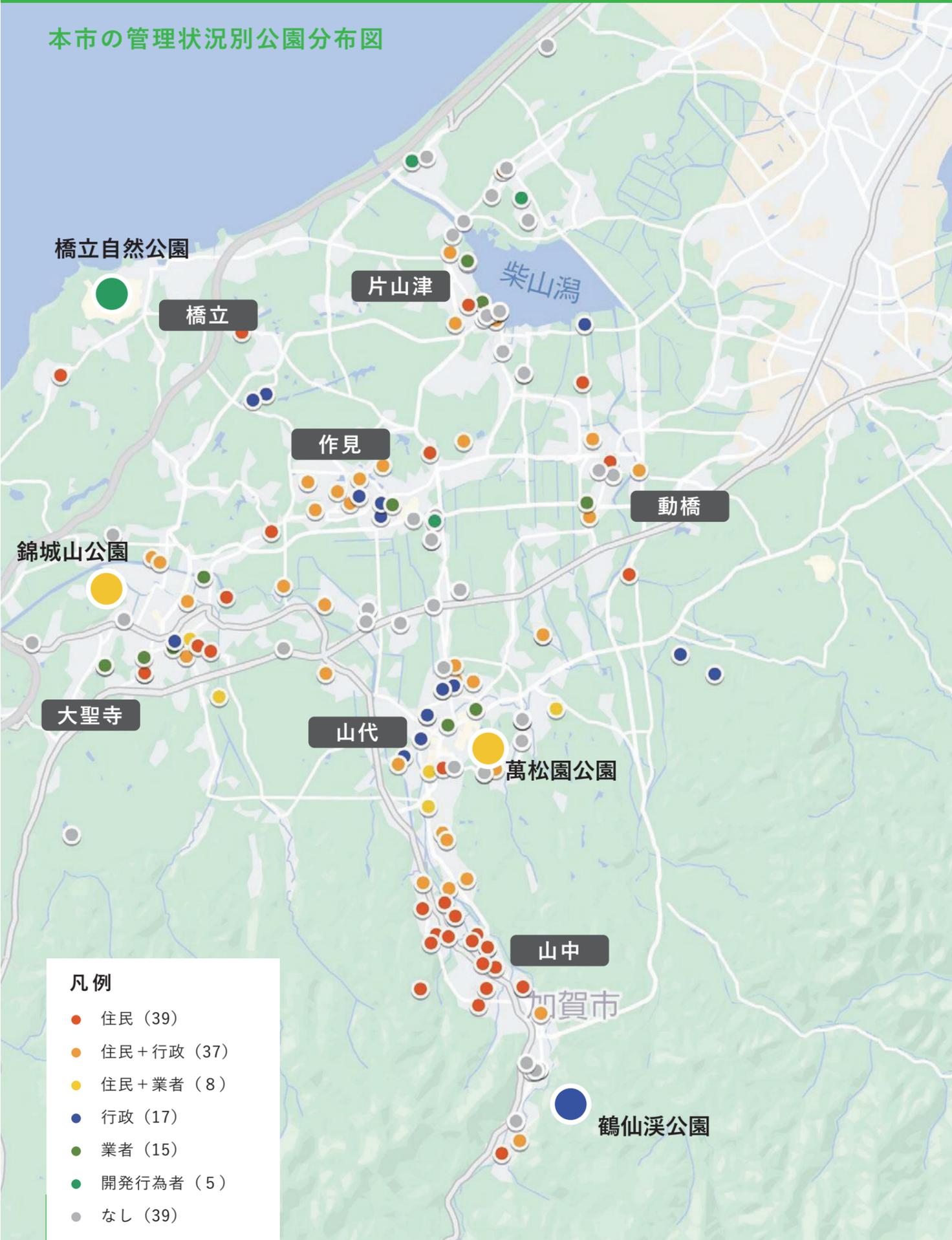


参照：加賀市緑の基本計画

➡ 人口減少や公園施設の老朽化が進み、更新・補修が固定的に発生するなか、市民一人当たりが負担する公園緑地管理費は増加していくと考えられる

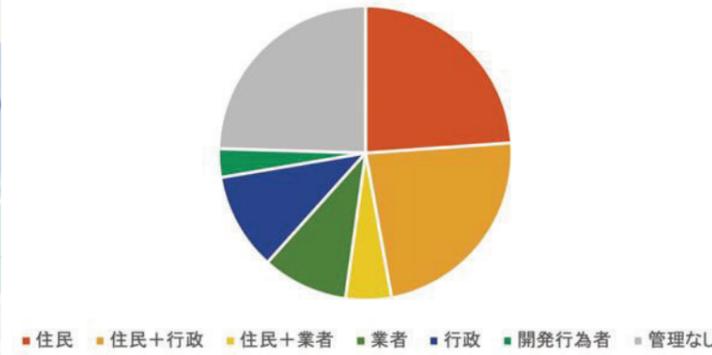
課題 ● 公園施設の老朽化の進行に加え、維持管理費の増加が懸念される

本市の管理状況別公園分布図

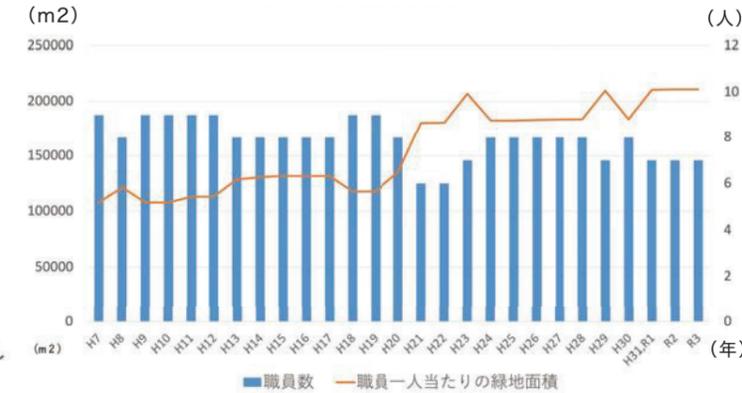


本市の公園の数と管理状況

公園の管理状況



加賀市公園管理担当の職員数と公園管理職員一人当たりの緑地面積の推移



本市には現在 159 (都市公園 61、その他の公園 98) の公園があり、その管理状況を左図に表した。管理については、かもワーク制度などを運用し、市民が自ら清掃活動や芝刈り等を実施している公園が 83 件、市が見回り点検しているところが 54 件ある。公園管理職員一人当たりの緑地面積が増加する中、本市が抱える公園の管理業務を増やすことは難しい。

土木課維持管理 土木課維持管理公園担当者へのヒアリング

課題

- ・かもワーク制度に加盟している 30 団体のうち、実際に機能している団体は 4-5 団体程度
- ・町内会もだんだん高齢化していて、担い手が少なくなっているとの声を聞く
- ・公園すべてを均一に管理するのは難しいので力を入れるところとそうではないかところを検討する

可能性

- ・都市公園は難しいかもしれないが、**その他公園であれば条例緩和をして、公園での様々なアクティビティが可能かもしれない**
- ・かもワークで実際に「こんなことがしたい」と団体からお願いされたところは維持管理が長く続いているので、**公園を使いたいというモチベーションが大事**

かもワーク制度で管理している公園

fig.11 住民の人から「自分たちで管理するからランドゴルフしたいので芝生にしてほしい」という声から、はじまった。団体で芝の管理をはじめさまざまな管理を行っている。

fig.12 まちづくり推進協議会が管理している。場所の植栽の名前などを示すサインなどの設置などを積極的に行っている。



課題 ● 公園、緑地を管理する人材の不足

②本市の生物多様性

SDGs 等の関心の高まりから、本市の生物多様性や環境についての現状把握を行い、課題を抽出した。

本市の植生

『加賀市の植生-緑を基礎とした環境創造・整備のための植生生態学的提言-』（宮脇昭ら,2002.3）より



2002年の調査にて作成された現存植生図

常緑広葉樹自然林

【エリア】 鹿島の森・出水神社・横北白山神社・錦城山など
【生態系】 タブノキ、スダジイなど

湿性植物群落

【エリア】 柴山澗を初めとした止水域、休耕田、低湿地
【生態系】 ヨシやヒルムシロクラス、キヤガラ、マコモなど。野鳥の生育場所。

夏緑広葉樹林帯

【エリア】 刈安山・鞍掛山
【生態系】 ミズナラ・エゾユズリハ・オオバクロモジなど

砂丘植生

【エリア】 塩屋海岸・片野海岸など
【生態系】 ハマボウフウ・イソスミレなど

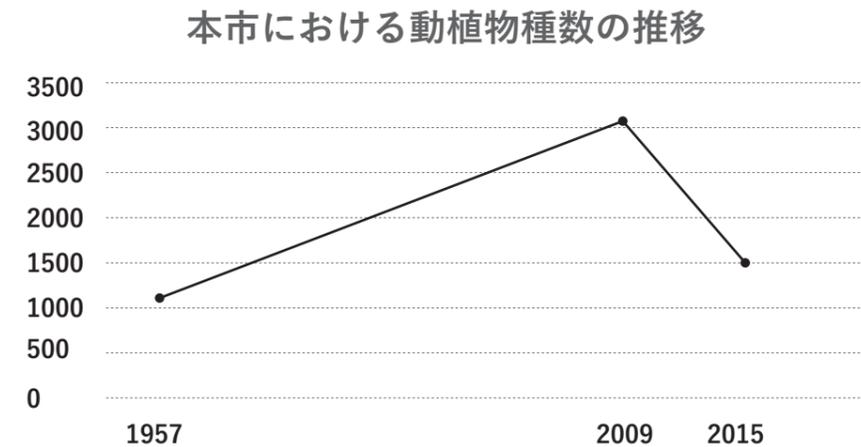
クロマツ林

【エリア】 塩屋海岸・片野海岸
【生態系】 クロマツ及びアカマツ。その植林方法のユニークさから、海岸砂防林形成史上の記念碑的存在となっている。

左図からわかるように、社寺林など文化の基盤としての自然林、水辺の湿性植物群落、山の夏緑広葉樹林、海岸の砂丘植生とマツ林など、海から山まで極めて多様な植生に覆われている。

本市における動植物の数

『加賀市の動物と植物』（松下奏編著, 2015）より



	1957年	2009年	2015年
魚類	93	117	107
両生類	12	16	15
爬虫類	5	7	8
貝類	24	12	17
水生昆虫		44	39
その他の昆虫など	236	805	366
鳥類	188	178	179
その他の動物		28	24
プランクトン		36	46
水生植物	79	77	69
陸生植物	473	1843	679
菌類・苔類	5	20	22
合計	2091	6194	2973

調査の時期や範囲・天候によって差異はあるものの、科・種・個体数において減少傾向にあることがわかる。

課題 ● 多様な植生が現存しているが、動植物の数は減少傾向にある

③本市のコミュニティの現状

みどりに関わるコミュニティの現状把握と課題を抽出するため以下の団体にヒアリングを行った。

追加のヒアリング先

地域緑化推進団体

地域の水やみどりに関して特定の場所で緑化（保全）活動する団体

かもワーク制度協力団体

市のアダプト制度のサポートによる自治会や市民団体が公園を管理する仕組み

市民活動団体

次世代が多く参加する緑化活動中心ではない市民活動団体

地域緑化推進団体

地域の緑化推進団体へのヒアリング

対象緑地カテゴリ | 公園・山・潟等 対象の緑地詳細 | 錦城山（大聖寺）・柴山潟（片山津）等
目的 | 各山や潟を使っていきたい ガーデンシティ構想に関して | 内容を知らなかった

課題

- ・維持管理に予算が割かれていて、その場所を使ったり活動するための予算になっていない
- ・管理作業時に出る廃棄物の処理にお金がかかるので、**廃棄に関する補助**を望んでいる
- ・自然環境などに興味がある人への発信がうまくいっておらず、メンバーの固定化・高齢化が起きている

可能性

- ・管理を**新しい維持管理の方法（パークマネジメント等）**に使っていくことができないか
- ・廃棄に留まらず、**管理に継続的にかかる工程や費用の見直しを行う**と管理しやすくなるのではないか
- ・自然環境に興味のある人に「この活動に関わりたい」と思ってもらえるような発信の仕方を行っている

地域緑化推進団体



錦城山城址保存会
毎週日曜日に錦城山（大聖寺）の竹林等の管理・清掃や錦城山のツアー（イベント）などを行う。



柴山潟流域環境対策協議会
柴山潟の水質調査や生態系の調査を担う。今後は清掃等も行っていきたい。



のぎくの会
加賀市の山で野草を採取し、販売している。活動拠点は三谷地区。

かもワーク制度協力団体

かもワーク制度協力団体のヒアリング

対象緑地カテゴリ | 公園・ 対象の緑地詳細 | 見晴台公園
目的 | 公園を地域のものにしていく ガーデンシティ構想に関して | 知らなかった

課題

- ・管理作業時に出る廃棄物の処理にお金がかかるので、**廃棄に関する補助**を望んでいる

可能性

- ・取り組みをきちんと見せることで**若い世代も担い手**になりうる
- ・町内で**担い手をつくる仕組み**（参加した人には必ず役割を与える）などが出来上がっているため、長く続いている
- ・子どもたちが**安心して遊んでもらえる場**として活用している

市民活動団体

育児サークルへのヒアリング

目的 | 子育てを地域ですていく ガーデンシティ構想に関して | 知らなかった

課題

- ・そもそもガーデンシティの取り組みをしらなかつたし、**お花を植える活動だとあまり興味がない**
- ・以前イベントをやるときに公園の許可をとるのがとても大変だったので**自分たちでやりたいことをやれる仕組み**が欲しい
- ・遊びを考えるのが大変なので**気軽に相談できるような人がいたら嬉しい**

可能性

- ・子どもたちが遊ぶ場を**公園や空き地などで自分たちで作っていく**というのはとても面白そう
- ・住んでいる地区では保育園がなくなって地域の連携が取りにくいので**公園や空き地などで集まることで地域連携**できたらとても魅力的
- ・自分の家も空き地を持っているので今すぐにでもサークル内で**外遊びやその場の管理**をやってみたい

課題

- 水辺と緑の保全活動や活用の機会に市民が関わりやすく、担い手が生まれにくい
- 条例の制限によりニーズにあった利用ができない
- 緑の管理費が活用ではなく、維持管理に使用されている

● 見直しに伴う調査のまとめ

①本市の公園や緑地の現状

- 課題 ● 公園、緑地を管理する人材の不足
- 公園施設の老朽化の進行に加え、維持管理費の増加が懸念される

②本市の生物多様性

- 課題 ● 多様な植生が現存しているが、動植物の数は減少傾向にある

③本市のコミュニティの現状

- 課題 ● 水と緑の保全活動や活用の機会に市民が関わりにくく、担い手が生まれにくい
- 条例の制限によりニーズにあった利用ができない
- 緑の管理費が活用ではなく、維持管理に使用されている

■ ガーデンの再定義

見直しの背景や現状と課題をふまえ、新たなテーマや基本方針を設定するために、本市におけるガーデンを再定義する。

これまで

ガーデンという言葉の定義として『精選版日本国語大辞典』に「庭、庭園、花園、菜園を表す」とあるように、**綺麗なお花が咲き誇り緑に溢れる人工的な空間**を指すことが多い。



都市緑化の先進国での緑化政策においては、**市民の活動を包含した持続可能な土地のあり方としてのガーデンやネイチャー**へと遷移していることから、歴史の中で培われてきた人々と自然の関わりの中で生まれた伝統文化と風景が息づく、**加賀市におけるガーデン**の考え方について再定義する。

加賀市におけるガーデンの再定義

ガーデン = みずとみどり

地域経済や市民の暮らしに潤いをもたらす

観光・移住・雇用

文化（温泉）・健康・子育て

固有の自然環境を活かした 人々の息遣いが感じられる

地形・気候・植生・生態系

緑に関わる活動が活発に起きている（活用・管理）

魅力的なみずとみどりの場や景観

■ 第2次プランのテーマ

上位計画や緑に関する計画のほか、現状及び課題をふまえ、第2次プランのテーマ、基本方針を設定する

● 第2次プランにおけるテーマ・基本方針・アクションプランの位置付け



テーマ

みずとみどりを継承・創造

地域社会を支える固有の自然環境を守り、つくっていく

住む人訪れる人がいきいきと輝くまち

市民や関係人口の活動が活発化し、暮らしが豊かになる

<これまでの上位計画等におけるテーマ>

(上位計画)

● 第2次加賀市総合計画

『自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち』

● 第2次加賀市都市計画マスタープラン

『ひと・もの・地域がつながる 住んでいたい 訪れてみたい 輝きが集約されたまち』

(緑に関する計画)

● 第1次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン

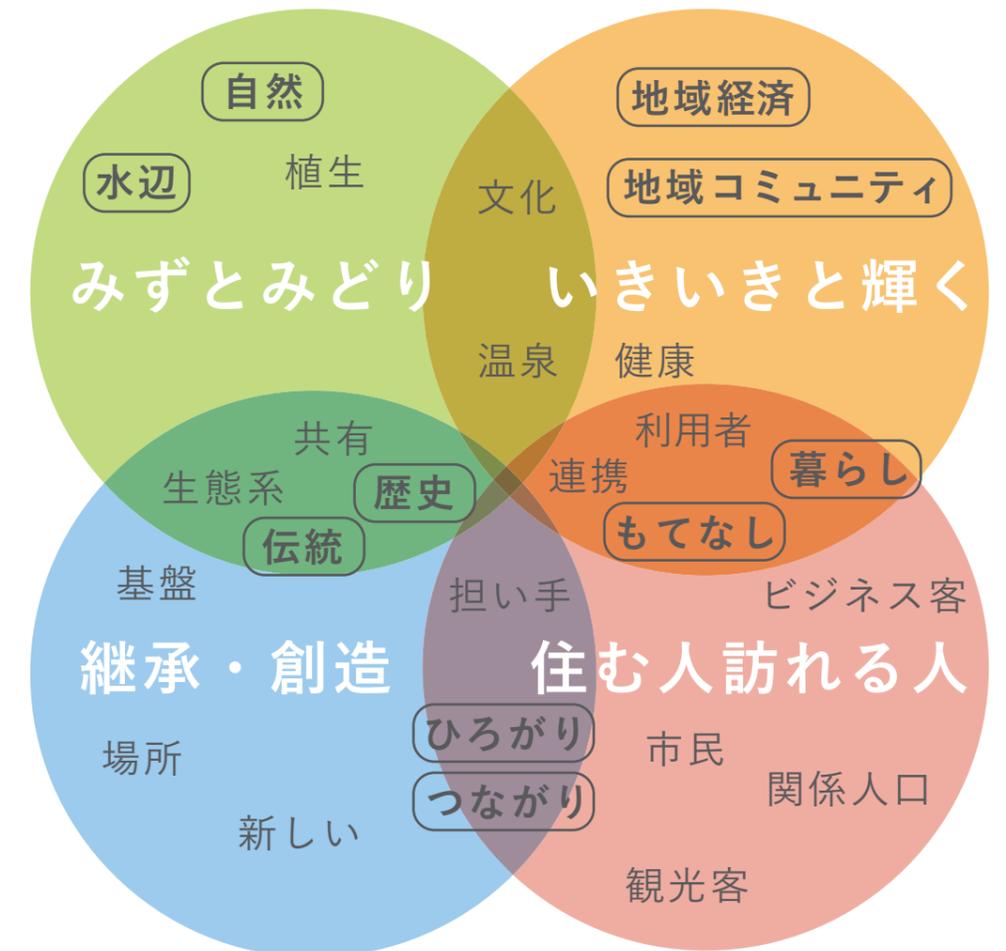
『ひろげよう 暮らしのみどり もてなしのまち』

● 加賀市緑の基本計画

『住んでいたい 訪れてみたい 水と緑のもてなし回廊 ～水と緑でつなぐ ひと・地域・自然が輝くまち～』

テーマとキーワードの関係イメージ図：

上位計画、緑に関する計画のテーマや課題となるキーワードを整理した



■ 第1次プランと第2次プランの基本方針の比較

第2次プランの基本方針は、テーマ（p14）やガーデンの再定義(p13)をもとに、第1次プランの「風景づくり」に「水と緑の活用」の要素を加え、これに重点を置くものとした。

第1次プラン

基本方針

- ①【骨格づくり】
メリハリのある風景づくり
- ②【温泉地等の観光地】
もてなしの風景づくり
- ③【眺望（今ある緑を活かす）】
地域を魅せる風景づくり
- ④【意識啓発・情報発信】
暮らしを楽しむみどり
- ⑤【連携体制・活動】
みんなでひろげるみどり



第2次プラン

基本方針

- ①【基盤】
自然を最大限に活かす基盤づくり
- ②【場所】
地域経済や地域活動の起点となる場所づくり
- ③【景観】
雄大な水と緑を活かした景観づくり
- ④【仕組み】
水と緑を有効活用する仕組みづくり
- ⑤【人】
水と緑の活用に携わる人とコミュニティづくり

第2次プランの基本方針

基盤 1. 自然を最大限に活かす基盤づくり

生態系の土台である自然環境の保全と継承を行いながら、自然環境や生態系が持つ多様な機能を活かし、安全・安心で持続可能な基盤をつくる。

場所 2. 地域経済や地域活動の起点となる場所づくり

各地域で市民がいきいきと活動し観光客が集まる各拠点相互のネットワークを構築し、もてなしだけでなく協働を生み出すコミュニティ活動の場所をつくる。

景観 3. 雄大な水と緑を活かした景観づくり

緑豊かな山々とその山々を源流とする河川や海岸等の水辺の他、白山等の雄大な自然を望める場所を継承、創出し、これらを活かした景観をつくる。

仕組み 4. 水と緑を有効活用する仕組みづくり

市内の公園緑地や空き地等の低未利用地を地域コミュニティが自主的に運営し、暮らしの中で様々なニーズに応じて水と緑を有効活用するための仕組みをつくる。

人 5. 水と緑の活用に携わる人とコミュニティづくり

水と緑の活用に関する啓発と意識醸成を図りながら、市民・事業者・行政の連携による水と緑の活用に携わる多様な人々とそのコミュニティを育てていく。

結びつく課題

- 多様な植生が現存しているが動植物の数は減少傾向になる
- 水辺と緑の保全活動や活用の機会に市民が関わりにくく、担い手が生まれにくい
- 緑の管理費が活用ではなく、維持管理に使用されている
- 公園、緑地を管理する人材の不足
- 公園施設の老朽化の進行に加え、維持管理費の増加が懸念される
- IC 付近で今ある風景を活かしきれていない
- 街路樹などの連続的空間になっていない
- 耕作放棄地など低未利用地が管理されていない
- 従来のもてなしの考え方では地域（まち）は活性化することは難しい
- 条例の制限によりニーズにあった利用ができない
- 情報発信不足によりコミュニティの横の連携がない
- 公園等が有効に活用されていない
- 市民への啓発が不十分
- 持続的な維持管理方法が共有されていない
- みどりに関する話し合いの場がない
- 継続的な維持管理が難しい
- 目指している方向性の共有や担い手との連携不足
- 新たな担い手がいないことによる活動人材の固定化